

# 砂防だより



高原の朝 (西伊豆スカイライン)

年頭のご挨拶 .....	2
2005年しずおかの砂防10大ニュース	
<b>平成18年度政府予算案閣議決定</b> .....	3
全国治水砂防促進大会	
<b>市町等砂防担当職員研修</b> .....	4
東海地区砂防協会支部長会議	
滝沢災害関連緊急地すべり対策事業 .....	6
平成の大合併(土肥町・金谷町・天竜市・三ヶ日町) .....	10
石碑を訪ねて .....	11
砂防関係の主な行事(H18.1~6月) .....	12



平成18年度 **政府予算案閣議決定**



三重県の砂防事業現地視察  
**市町等砂防担当職員研修**



全国治水砂防協会静岡県支部

# 年頭の御挨拶

全国治水砂防協会静岡県支部  
支部長 石川 嘉延



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当協会支部活動に対し御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

近年、世界的な異常気象が叫ばれており、昨年は、アメリカにおいてハリケーンによる大変大きな被害が発生しました。我が国においては、土砂災害の面では、九州地方を中心に台風14号等による被害があったものの、本県では28件と例年の6割ほどの発生で、人的被害もなく比較的平穏な年を送ることができました。この中で、7月に起きた藤枝市滝沢の地すべりでは、現地に「地すべり危険箇所表示板」を設置し周知を図っていたところ、住民の方から、前兆現象を通報していただいたお陰で、その後の台風時の避難勧告の発令と、対策工事の早期着手という、ソフト・ハードの両面による総合的な土砂災害対策を実施し、大きな効果を上げることが出来ました。

現在、本県では「富国有徳 創知協働」の基本理念の下、「県民くらし満足度日本一」を目指し、「安心・安全」など10の分野にわたり戦略的に施策を展開しております。

先の藤枝市の例のように、県民の生命と財産が土砂災害から守られ、安全で安心して暮らせる社会を実現できるよう、今年も砂防関係事業の推進に努力してまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

## 2005年 しずおかの砂防 10大ニュース

- 1 **由比地区直轄地すべり対策事業が平成17年度から新規着手**  
平成17年度から由比地区における直轄地すべり対策事業が採択され、地すべり機構解析、工事用道路に着手しました。
- 2 **藤枝市滝沢地区の地すべりなど土砂災害が28件発生し、災害関連緊急事業で5件対応、ストップザ土砂災害（施設効果箇所）は9件**  
梅雨前線豪雨などにより年間28件の土砂災害が発生し、7月に発生した藤枝市滝沢地区の地すべりなど5箇所が災害関連緊急事業約8.4億円が採択されました。また、9件で防止施設の効果により被害を未然に防止しました。
- 3 **2005火山フォーラムが富士宮市で開催される**  
10月13日に、富士宮市民文化会館で、約800名の参加のもと、火山と地域の安全についての理解を深め、活力ある地域づくりのための意見交換が行われました。翌14日には大沢扇状地などの現場見学会が行われました。
- 4 **平成の大合併で協会会員が減少**  
市町村合併により3月31日時点での会員数68が10月11日には43となりました。
- 5 **平成17年度砂防協会役員改選により新体制でスタート**  
5月30日に通常総会が開催され、2年ぶりの協会役員改選により、石川支部長、原田副支部長、小室副支部長、古川顧問(土木部長)等の新体制でスタートしました。
- 6 **「土砂災害防止推進の集い(全国大会)」で熱海市の4人が土砂災害防止功労者として表彰される**  
平成16年の台風22号の豪雨で発生した熱海市伊豆山東谷地区のがけ崩れで土砂に埋まった女性を救助した功績により、同市の中田好保さん、中田公威さん、小松清雄さん、染谷真弘さんの4名の方が「土砂災害防止功労者」として表彰されました。
- 7 **静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟が総会及び現地視察会を開催**  
9月29日に総会を開催、12月16日には熱海土木事務所及び沼津土木事務所管内の砂防関係事業、治山事業の現地視察を行い、土砂災害対策への理解を深めていただきました。
- 8 **土砂災害防止法の警戒区域等の指定が累計83箇所**  
平成16年度までに58箇所を指定し、12月に25箇所（三島市4、静岡市4、掛川市7）を指定しました。これにより累計83箇所の指定となりました。
- 9 **三重県・和歌山県砂防協会及び台湾視察団が本県の砂防関係事業を視察**  
10月17～18日に三重県砂防協会25名、11月1日に和歌山県砂防協会30名、11月22日に台湾視察団7名の皆さんが本県を訪れ、木和田川、口坂本地区土石流監視システム、土砂災害防止法の取り組み、沼津市多比急傾斜の津波対策、サイボスの視察等をされました。
- 10 **砂防協会市町等職員研修を三重県で開催**  
平成16年に甚大な土砂災害を被った三重県宮川村で、砂防・急傾斜地崩壊対策事業などの復旧状況等の現地見学や、砂防関係事業における市町の役割などについて研修を行いました。

# 平成18年度 政府予算案閣議決定

12月24日に、平成18年度の政府予算案が閣議で決定されました。砂防関係の額は下記のとおりです。

## 河川局所管砂防関係事業予算内示額【国費】

(単位:百万円)

区 分	前年度予算額 (A)	18年度内示額 (B)	対前年度比 (B/A)
砂 防 事 業	132,286	128,965	0.97
地 す べ り 対 策 事 業	16,539	16,594	1.00
急 傾 斜 地 崩 壊 対 策 事 業	22,621	21,565	0.95
計	171,446	167,124	0.97

注1) 道路関連社会資本分、特定治水及び剰余金等を含む。 注2) 計数は、整理の結果端数調整することがある。

注3) 上記計数以外に、総合流域防災事業(統合補助金)の内数として砂防関係事業がある

### 〈参考〉

総 合 流 域 防 災 事 業	72,928	66,303	0.91
-----------------	--------	--------	------

注) 総合流域防災事業には、砂防関係事業(砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業)の他、河川事業・ダム事業も含まれる。

## 「全国治水砂防促進大会」開催される

11月15日に、全国治水砂防促進大会が東京都の砂防会館で開催されました。

当日は、全国から584名の会員が参集し、当支部からも19名のご出席をいただきました。

大会は、綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、北側国土交通大臣の祝辞を江崎国土交通副大臣が代読されました。続いて、亀江国土交通省砂防部長の挨拶、宮崎県西臼杵郡日之影町長、愛媛県西条市長からの意見発表が行われました。最後に、大久保理事長が決議を發表し、満場一致で採択されました。

大会終了後、当支部会員の皆様により、地元選出国會議員19名へ本県支部要望書、全国治水砂防協会要望書を持参し、平成18年度予算の確保に向けての要望活動を行いました。

お忙しい中、ご出席をいただきました会員の皆様には心から御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶

### 主な要望事項

#### 1. 直轄砂防事業の推進

【重点箇所】 ・富士山の火山対策 ・大沢川源頭部調査、大沢川中間床固工  
・三河内川床固工群、大谷山腹工 ・唐沢砂防堰堤、岩尾第3砂防堰堤

#### 2. 直轄地すべり対策事業の推進

【重点箇所】 ・由比地区直轄地すべり対策事業の推進

#### 3. 県による土砂災害防止施設(砂防、地すべり、急傾斜地崩壊対策)の整備とソフト対策の着実な推進への支援・協力

【重点箇所・施策】 ・口坂本地すべり対策事業(静岡市)  
・東海地震に備えた緊急的な防災施設の整備  
・火山噴火災害も想定されている富士山周辺地域の土石流対策の強化  
・土砂災害防止法に基づく「砂防基礎調査」の推進  
・安全で確実な避難のための土砂災害対策の推進



### 参加市町

静岡市、富士宮市、掛川市、袋井市、裾野市、湖西市、伊豆市、御前崎市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、小山町、富士川町、蒲原町、由比町、森町

# 東海地区砂防協会支部長・課長会議開催される

11月21日に、東海地区砂防協会支部長・砂防課長会議が愛知県犬山市において開催されました。

当日は、国土交通省から中野砂防計画課長、全国治水砂防協会から岡本常務理事、各県支部長、砂防課長が出席し、本県からは副支部長の原田袋井市長、本橋砂防統括監が出席しました。

会議では、国土交通省から、最近の砂防行政の動向、近年の土砂災害の特徴や課題及び平成18年度砂防関係事業概算要求方針についての説明があり、その後、各県の支部長等から避難勧告などについて、意見交換が行われました。

22日は、犬山市倉曾洞のがけ崩れ災害の復旧状況等の現場視察を行いました。



岡本常務理事の挨拶

## 市町等砂防担当職員研修

特集

# 三重県の砂防事業現地視察



10月19～20日に、市町等砂防担当職員の研修会を伊勢市で開催し、県内各地から23名の参加がありました。

この研修は、市町等職員の皆さんの砂防事業に関する知識・技術の習得、向上に資するためのもので、毎年開催しています。

初日の研修会では、加納砂防室長、池ヶ谷砂防係長、北沢傾斜地保全係長からそれぞれ砂防に関する講義がありました。その後、事前に参加者の皆さんから寄せられた質問についての回答があり、講義終了後には質疑応答が行われ、活発な意見交換がなされました。

2日目の現場研修は、三重県災害復旧室の協力を得て平成16年9月の台風21号による土砂災害とその対応についての説明を受けました。午後には、宮川村役場担当者から被災当時の状況や対応についての講義を受けました。

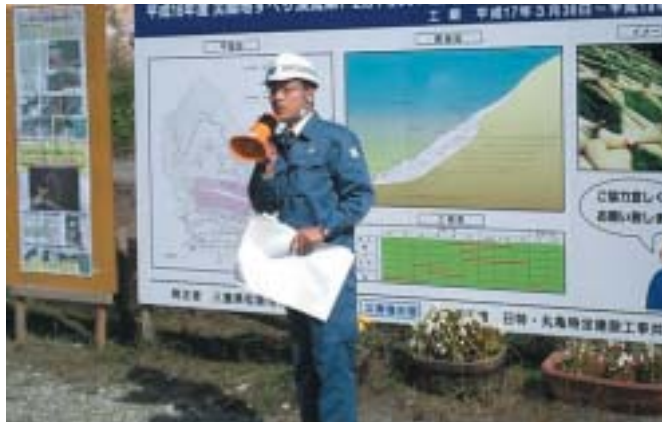
視察終了後には、「大規模な災害現場を視察し役場担当者の生の声を聞くことができ大変参考になった」、「復旧現場や荒れ果てた護岸を見ると改めて土砂災害対策の大切さを認識させられた」、など多くの意見が寄せられました。

## 研修内容

- 10月19日 ●砂防に関する講義（伊勢市）
- ・砂防関係事業における市町の役割について
  - ・砂防関係事業（ソフト対策）について
  - ・土砂災害の発生状況等について
  - ・市町から提出された課題
- 10月20日 ●現場研修（宮川村）
- ・天ヶ瀬地区地すべり対策
  - ・唐櫃1,2災害関連緊急砂防事業
  - ・滝谷地区急傾斜地崩壊防止施設災害復旧工事
  - ・宮川村役場での講義



研修会（伊勢市内会議室）



三重県災害復旧室吉田室長による説明

## 10月20日現場研修箇所

### ■ 天ヶ瀬（あまがせ）地区地すべり対策

災害原因 地すべり  
 被害状況 宮川本川、民家、県道大台宮川線  
 事業名 災害関連緊急地すべり対策事業  
 地すべり激甚災害対策特別緊急事業  
 主な対策 集水井工、集水ボーリング工、アンカー工



### ■ 唐櫃（からと）1 災害関連緊急砂防事業

災害原因 土石流  
 被害状況 全壊1棟、半壊等2棟、交通途絶6日  
 事業名 災害関連緊急砂防事業  
 主な対策 堰堤工1基



### ■ 唐櫃2 災害関連緊急砂防事業

災害原因 土石流  
 被害状況 全壊1棟、交通途絶6日  
 事業名 災害関連緊急砂防事業  
 主な対策 堰堤工1基

### ■ 滝谷地区急傾斜地崩壊防止施設災害復旧工事

災害原因 がけ崩れ  
 被害状況 死者4名、負傷者1名、全壊3棟  
 事業名 急傾斜地崩壊防止施設災害復旧事業  
 主な対策 擁壁工、法面工、アンカー工

### ■ 宮川村役場での講義

宮川村役場で、担当者から平成16年の台風21号豪雨の状況、災害発生から避難・救助活動、被災者の生活支援、続く台風22、23号の到来への対応、災害の教訓、その後の災害対策についての講義を受けました。

被災当時、不足している通信手段の中での住民やマスコミへの対応、職員の役割、避難所の見直しや設置など、役場担当者の経験談に参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

回収したアンケートからも「改めて防災の大切さを認識させられた」との声が多数寄せられました。



宮川村役場担当者



## 参加者の声



参加者の皆さん（宮川村役場前）

#### ■ 焼津市 河川課主任技師 西尾将秀さん

今回の砂防研修に参加し、平成16年の台風21号により甚大な災害が発生した三重県宮川村を視察、実際に災害に対応した宮川村職員の話聞く事ができ、災害時のリアルな話が印象に残りました。土砂災害を防止するには、施設整備と共に避難体制等のソフト対策、さらに住民、行政の連携と常時からの意識の持ち方が大切だと感じました。

#### ■ 袋井市 道路河川課主査 富山正俊さん

今回の研修に参加し、災害現場を実際に見ることで、土砂災害の恐ろしさや規模の大きさを実感することができました。また、災害当日の状況を直接担当者から伺うことができ、地域との連携、警戒避難体制の整備、情報収集や提供体制の整備などのソフト対策の重要性や、普段からの災害に対する意識付けの大切さを再認識しました。

# 滝沢 災害関連緊急 地すべり対策事業



7月9日の豪雨により、藤枝市滝沢地区で発生した地すべりが、「災害関連緊急地すべり対策事業」として10月に採択されました。

現在は、現地雨量計、伸縮計、土石流センサー、監視カメラ等の機器を設置して地すべり観測を継続するとともに、地すべりの進行を抑えるための排土工と水抜きボーリング工の施工にとりかかりました。



地すべり頭部伐採状況

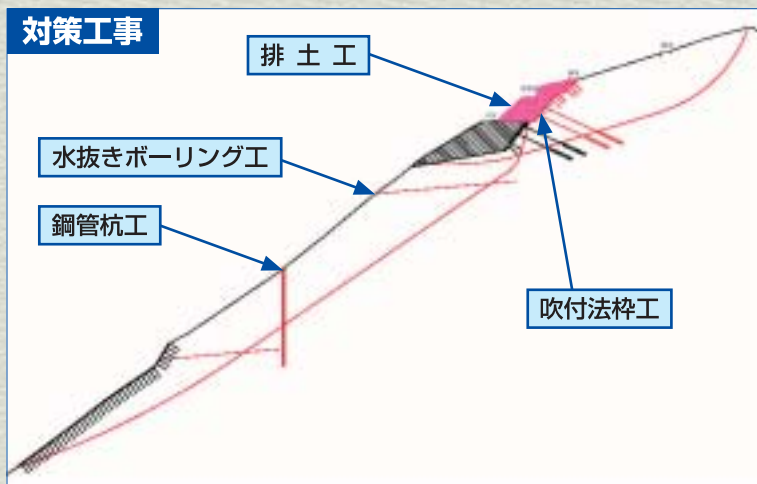


地すべり頭部

## 排土工

地すべりブロック内の土砂を取り除き、地面がすべろうとする力を小さくします。

## 対策工事



地すべり対岸の監視カメラ

今後は法面工と抑止杭工を施行し、年度内に地すべりの動きを止めるよう対策工事をすすめていきます。

滝沢地すべりについては、インターネットの滝沢地すべり情報共有システムにて詳細を提供しています。

《URL》

<http://takisawalandslide-sherpa.intranets.co.jp>



地元住民への工事説明

# ネパール・インドネシア海外研修報告

静岡県土木部砂防室 副主任 久木田真次

10月17日～11月1日に、静岡県職員海外研修としてネパール・インドネシアの砂防事業について2週間の研修を行いました。

ネパールやインドネシアでは、大規模な土砂災害や火山泥流が頻発している中、限られた予算とわずかな気象防災情報の中でも、自然の脅威とうまく共存しています。そこでこれらの地域におけるハード対策、特にコスト削減策と、住民を介したソフト対策が今後の本県の防災対策、砂防事業推進の参考になるものと考え研修地を選びました。



## 海外研修行程

- 出国
  - ネパール(カトマンズ) 治水砂防局第4事務所
  - インドネシア(ジャカルタ) 水資源統局
  - インドネシア(ジョグジャカルタ) 砂防技術センター、砂防研究所  
メラビプロジェクトオフィス
- 帰国

本研修では、各国の経済状態に応じた工夫や取り組みを見ることができました。両国に共通している興味深い取り組みとして、①高価なコンクリートを節約するためにギャビオンと呼ばれるフトン籠やメイソニーと呼ばれる石積など代替の材料を用いて施工していること、②維持修繕が地域住民によってなされていること、③危険察知や周知のシステムが、人を介在していることなどが挙げられます。



ネパール：現地の小学生との意見交換

日本の公共事業は、今後「新設」から「維持修繕」に重きをおく時代になります。限りある予算を有効かつ効果的に執行し、公共施設を適切に管理していくためには、住民にコスト意識を持ってもらい、自ら工夫して管理するという意識が生まれるような取り組みを行うことが重要だと考えます。両国の取り組みが我が国の模範となる日も近いかもしれません。



ネパール：地すべり現場の説明



インドネシア：CADによる溪流保全工の設計



インドネシア：土石流実験施設

## 静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟が現地視察

12月16日に、豊かな生活環境の創造と安心して暮らせる社会基盤の整備を目標に、砂防事業の推進を目指す「静岡県議会 治山・砂防事業推進議員連盟」が、伊東市周辺の砂防事業等の現地視察を行いました。

今回の視察には、会員71名のうち30名が参加し、平成16年の台風22号の豪雨による伊東市宇佐美地区の災害復旧状況として、名草沢災害関連緊急砂防事業などを視察しました。

参加した議員には、非常に興味を持って視察していただき、安心できる生活基盤整備には砂防・治山が非常に重要であると再認識していただきました。



参加された議員の皆さん（伊東市名草沢砂防えん堤）

### 現地視察行程

- 熱海駅集合
- 国道135号地すべり道路災害復旧事業
- 名草沢災害関連緊急砂防事業
- 烏川災害関連緊急治山事業、復旧治山事業
- 修善寺川（桂川）流域の災害状況とその対応
- 三島駅解散

### 参加議員30名（敬称略、順不同）

奥之山 隆(自民)	小野 達也(自民)	込山 正秀(自民)	佐野 愛子(平成21)
前沢 侑(自民)	小野登志子(自民)	菊池 初彦(自民)	赤堀佐代子(自民)
野澤 義雄(平成21)	石橋 康弘(自民)	長崎 国男(平成21)	松井 三郎(KEN-MIN)
谷 卓宜(公明)	豊岡 武士(自民)	早川 育子(公明)	太田 京子(公明)
杉山 盛雄(自民)	岩田 政雄(平成21)	中澤 通訓(自民)	阿部 時久(公明)
森 竹治郎(自民)	高田 泰久(平成21)	山田 誠(自民)	岡本 護(平成21)
鳥澤 富雄(民主無ク)	植松 明義(平成21)	前林孝一良(公明)	
田島 秀雄(自民)	原 文雄(平成21)	小長井由雄(民主無ク)	

## 富士山火山砂防計画検討委員会の開催



池谷委員長の挨拶

11月16日に、第2回富士山火山砂防計画検討委員会が富士宮市で開催されました。本委員会は、富士山火山防災マップの火山噴火影響範囲の公表を受け、想定される火山災害を軽減させるための砂防計画を平常時から噴火直前・噴火後等の状況に合わせ策定することを目的としております。第1回は3月11日に開催され、火山噴火に伴う土砂災害を軽減する砂防施設計画（ハード対策）の対象現象とその規模について検討しました。今回は、前回に引き続き土石流対象規模を検討するとともに、土砂災害危険度を再検討しました。

## 富士山火山砂防事業連絡会の開催

11月17日に、平成17年度富士山火山砂防事業連絡会が富士宮市で開催されました。この連絡会は、富士山に関わる火山砂防事業の内容について、関係機関が相互に情報を共有する場を設置し、富士山における火山砂防事業の円滑な推進を図るために毎年開催するものです。はじめに富士砂防事務所からの富士山に関する情報機器整備計画についての報告や各機関からの富士山周辺の砂防事業計画についての報告があり、引き続き静岡県、山梨県から富士山の世界遺産登録に向けての取組み状況の紹介がありました。



## 台湾砂防事業視察団が来静

11月22日に、台湾から砂防事業視察団が来静されました。

視察団は、花蓮懸政府農業局 杜局長を団長とする一行7名で、土木部長との意見交換の後、県庁内で土木防災システム（サイポスⅡ）や防災局での東海地震への防災体制を視察した後、由比地すべり管理センターを訪問し、地すべり対策を視察されました。



古川土木部長との意見交換



## 静岡市都市山麓グリーンベルト協働事業 子供たちと門松・しめ縄作り

12月25日に、清水高部小学校で都市山麓グリーンベルト（砂防樹林帯）で伐採した竹を利用し、「PTAボランティア推進委員会」、「森と水辺を育てる会」（ボランティア団体）が中心となり、父兄や子供たち約90名の参加のもと門松やしめ縄作りを行いました。

子供たちは、門松づくりでは松の3本の角度を揃えるのに苦労しているようでしたが、親子で協力し何とか完成させていただきました。しめ縄作りでは、わらをよじりながら編む作業に苦労していましたが、お年寄りから指導を受けながらこちらも何とか完成したようでした。出来上がった作品は、大きさも形も十人十色でしたが、皆さん満足感いっぱい「今年も良い正月が迎えられそうです」という声が聞けました。

今回の作業会は、小学生からお年寄りまで参加し、地域のふれあいの場としても大切であると感じ、また、日本の良い伝統を引き継いでいくため、今後もこの作業会を続けていきたいと思えます。



完成した門松・しめ縄と一緒に記念撮影

## 平成17年度 砂防治山連絡会議の開催



本橋砂防統括監の挨拶（静岡県庁会議室）

12月15日に、平成17年度砂防治山連絡会議が静岡県庁別館で開催されました。会議では、来年度以降予定されている砂防、治山事業が効率的に実施できるよう調整を行いました。

### 出席者

- ・関東森林管理局治山課
- ・伊豆森林管理署
- ・大井川治山センター
- ・沼津河川国道事務所
- ・静岡県森林保全室
- ・静岡森林管理署
- ・天竜森林管理署
- ・静岡河川事務所
- ・富士砂防事務所
- ・静岡県砂防室

## 三重県治水砂防協会と和歌山県治水砂防協会が来静

10月17～18日に、三重県治水砂防協会が県外砂防事業研修のため来静されました。

初日は静岡市内で静岡市口坂本地区の地すべり・土石流対策に関する説明、土砂災害防止法の指定と警戒避難体制の整備に関する説明を受け、平成15年に登録文化財が被災した岡部町木和田川の二号えん堤の災害復旧事業等を視察されました。

2日目には静岡空港の建設現場を視察されました。

11月10～11日に、和歌山県砂防協会が県外砂防事業研修のため来静されました。

初日は静岡市内で土砂災害防止法の指定と警戒避難体制の整備に関する説明を受け、沼津市多比地区で津波対策として行われた急傾斜地崩壊対策事業等を視察されました。

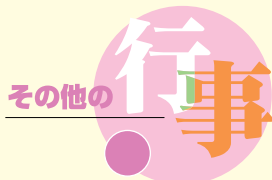
2日目は沼津河川国道事務所管内を視察されました。



岡部町木和田川にて災害復旧事業を視察



土砂災害防止法の指定等に関する説明



平成17年	10月	17～18日	地すべり現地討論会（富山県）
		21日	全国治水砂防協会参与会（東京都）
		25～27日	砂防学会シンポジウム（徳島県）
	11月	9日	第5回事業評価監視委員会（静岡県庁）
		11日	東海地区直轄事務所長・砂防課長会議（岐阜県）
		14日	全国治水砂防協会参与会（東京都）
		24～25日	東海地区地すべり・急傾斜担当者会議（愛知県）
	12月	26日	土砂災害警戒情報市町説明会（静岡県庁）

# 平成の大合併

静岡県内でも市町村合併が進み、数多くの市町村が歴史に幕を閉じることとなりました。そこで、旧首長の皆さんに旧市町村に寄せる思いを御執筆願いましたところ、快くお引き受けいただきましたので、前号に引き続き第2段を掲載させていただきます。

## 「伊豆市の誕生を省みて」

旧土肥町長 鈴木 衛



伊豆市は旧土肥町、旧天城湯ヶ島町、旧修善寺町、旧中伊豆町が平成16年4月1日をもって合併し誕生した市です。

市町村が合併をすることは、それぞれの町村にとっては、必ずプラス面とマイナス面とがあり、それぞれの町村に全部良いと云うことはありません。私は、町の将来を展望し熟慮の結果、孫子の兵法で云う四路五動の中で前進を選択致しました。こうして合併協議を重ねていく中で最も苦慮した問題は消防とごみ処理、火葬場等の一部事務組合との対応であったと思います。

さて、今、旧土肥町の災害の歴史を振りかえったとき、最大の災害は昭和36年6月28日の集中豪雨災害であったと思います。

町では、復旧復興事業専門の災害復興課を新設し、国、県、自衛隊等の応援を頂きながら4年の歳月と17億円を要しました。その際、河川の拡幅や堤防の改修、多くの砂防堰堤の構築等をしていただきました。こうして、何度か水害に見舞われた地域の住民に一応の生活上の安全、安心が確保されたものと云えます。

平成16年3月31日、土肥町はその歴史に幕を閉じ、私も公務員としての48年間の生活にピリオドを打ちました。そして、静かにさわやかな気持ちで舞台から去りました。

終わりに、全国治水砂防協会静岡県支部の限りない発展を心から御祈念申し上げます。

## 「合併に伴う退任にあたって」

旧金谷町長 大石好昭



金谷町の治水砂防事業につきましては、平成15年8月の豪雨により神尾地区において、急峻な斜面が崩落し大井川鉄道の線路敷を覆い、川根地区とを結ぶ交通機関が寸断されるという大規模な災害が発生しました。

しかしながら、国、県、治水砂防協会のご尽力により災害関連緊急地すべり対策事業として採択を受け、県の施工により崩落から約7ヶ月という短期間で運転が再開でき心から感謝と御礼を申し上げます。

昭和32年に誕生した金谷町は、災害救助法が発動された昭和34年の豪雨による水害をはじめとする幾つかの厳しい試練を乗り越え、町民皆さんの力で繁栄を築いてまいりましたが、47年間の歴史に幕を閉じ、平成17年5月5日に島田市との合併により新市「島田市」として生まれ変わりました。新市におきましては、現在、静岡空港、第二東名自動車道建設などの大型プロジェクトが展開されており、新市の飛躍的な発展につながるものと確信するとともに、市民が互いに支え合い力を合わせ活力に満ちた協働のまちづくりが行なわれることを望んでおります。

終わりに、全国治水砂防協会静岡県支部の益々の発展とご活躍を祈念申し上げます。挨拶と致します。

## 「合併に伴う退任にあたって」

旧天竜市長 中谷良作



敗戦後60年が経過し、あらゆる分野での制度疲労が論議され国を挙げての構造改革が叫ばれてきました。その中でも、市町村合併は、目的ではなく行財政改革の手段として捉えてまいりました。

平成の大合併も時代の要請と受け止め、15回にわたる法定合併協議により新浜松市が誕生しました。全国的にも注目される12市町村の合併であり、その成否は予断を許さないものでした。

市民をはじめ、市議会議員の皆様方の先見性を持った賢明なるご理解とご支援の賜と深く感謝しております。

苦渋の選択でありましたが、全国市長会等の情報交換の場で得た貴重な示唆が拠所となりました。

こうして全国的に市町村合併が進展しても、肝心要の地方分権が三位一体改革の影で一向に進まないことを危惧しています。道州制が提言されている中、国から地方への権限委譲は、早急に具体化すべきであります。

しかしながら、災害を防止する治山治水等の砂防事業は、国土保全の根幹をなすものであり、国の所管事項として是非とも推進すべきであると考えます。

私どもは、大同合併いたしましても「こんなはずではなかった、馬鹿をみた」という声が出ないよう、重大な関心を持って見守っていきたく考えています。

結びに、砂防協会の益々のご発展と皆様方のご活躍をお祈りする次第です。

## 「12市町村合併に伴う退任にあたって」

旧三ヶ日町長 鈴木浩太郎



過去に例のない12市町村の大合併が浜松市長提唱のもと、それぞれの市町村の命運をかけた白熱した議論、協議をかさね平成17年7月1日に新浜松市としてそれぞれの地域の将来を託して誕生いたしました。

全国治水砂防協会静岡県支部のこれまでの、旧三ヶ日町の安全で安心して生活できるよう事業実施にご尽力を頂きましたことに、心より感謝する次第であります。

新浜松市域は、総面積1,511km<sup>2</sup>と广大で、その70%は山林であり、天竜川、都田川など河川も多く、豊かな自然環境の資源に恵まれており、新浜松市が目指す将来のまちづくりに、大きな可能性があるかと推察されます。

旧三ヶ日町は、全国一のブランド「三ヶ日みかん」の産地であり、全国でも屈指の農業生産高を誇り新浜松市の一員として、重要な地位を占めているところであります。

しかしながら、三ヶ日の地形はみかん樹園地の背後は急峻な山林を控えているため、豪雨時にはその水がいきなり下流の生活圏へ流れ込む現状となっています。

治水砂防事業推進の必要性は安心安全、水質環境、生活環境の観点からも、また、みかん産業推進発展のためにも、さらに重要となっています。

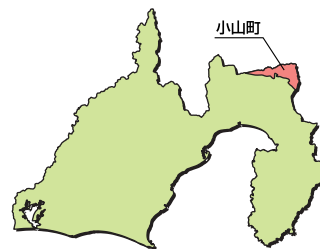
最後に、新市浜松三ヶ日地域の砂防事業推進への、ご指導お力添えをお願い申し上げますとともに、治水砂防協会の益々のご発展を祈念いたしまして退任の挨拶といたします。

# 石碑

をたずねて

<vol.7>

昭和47年7月12日、小山町の中心部である同町北東部を襲った集中豪雨は、中島川、須川、野沢川の流域を中心に、死者3名、倒壊流失家屋64棟、浸水家屋210棟、河川災害167箇所、道路災害175箇所、農地被害179ha等の大きな被害をもたらしました。悲しみを乗り越え、被害を3年間で復旧した記念碑が、町内の各所に建立されています。



## 明け行く郷土

- 場所  
小山町柳島
- 建立日  
昭和53年12月

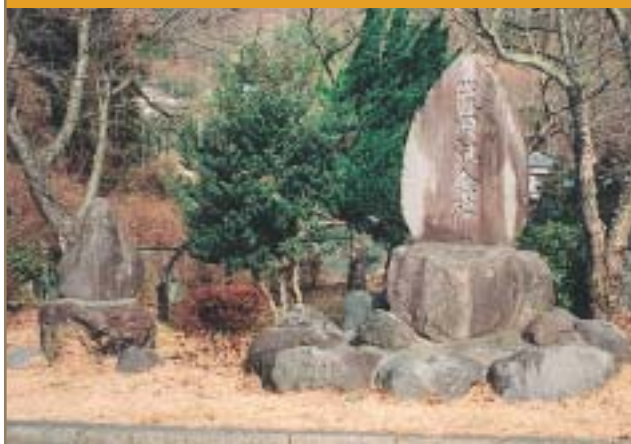


## 慰霊碑



- 場所……小山町中島
- 建立日……昭和50年3月

## 須川災害復旧記念碑



- 場所……小山町菅沼
- 建立日……昭和51年1月

また、昭和57年8月1～3日にも、小山町北東部が集中豪雨に襲われ、滝沢川周辺で死者1名、床上浸水31棟、床下浸水130棟、河川災害60箇所、道路災害31箇所、農地被害420ha等の大きな被害をもたらしました。この災害は山地の崩壊土砂が滝沢川を流下し、市街地に被害をもたらすという、この地区の災害パターンの典型であり、この災害を契機に、大規模な砂防事業が計画され、砂防堰堤の建設と流路の付け替えが平成10年に完成したことを記念して石碑が建立されました。

## 滝沢川砂防事業竣工記念碑



- 場所……小山町小山
- 建立日……平成10年4月17日

# お知らせコーナー

## 土砂災害警戒区域等を指定しました

平成17年12月26日に静岡・三島・掛川市内の25箇所に土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域を指定しました。平成17年度には今回の指定を含め100箇所程度の区域指定を行う予定です。

土砂災害警戒区域では市町地域防災計画に基づく警戒避難体制の整備が進められます。また、土砂災害特別警戒区域では災害時要援護者関連施設等の建築を行う場合の開発行為の許可制や住宅建築物等の構造規制等が図られ、土砂災害を防止するためのソフト対策が推進されます。

今回指定した区域は、砂防室、関係土木事務所、関係市で図面を縦覧する他、関係市の広報紙や砂防室ホームページ(<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>)でお知らせしています。

### 静岡県における区域指定状況(H17.12.26現在)

指定年月日	指定市町(区)	指定箇所数	内 訳
平成16年度	—	58	土石流14、急傾斜44
平成17年 12月26日	静岡市葵区	4	急傾斜 4
	三島市	14	急傾斜14
	掛川市	7	土石流 4、急傾斜 3
	今回計	25	土石流 4、急傾斜21
合計		83	土石流18、急傾斜65

## 第46回 砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため講習会が開催されます。

日 時：平成18年3月16日(木)～17日(金)  
会 場：砂防会館別館1階「利根」  
対 象：砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員

参加費：5,000円

主催：全国治水砂防協会  
TEL (03) 3261-8386

問合せ先：全国治水砂防協会  
静岡県支部  
TEL (054) 221-3042



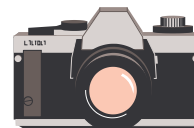
## 2007砂防カレンダー「現場周辺の山・谷・川」写真コンテスト

砂防関係工事現場やその周辺の仕事、暮らし、余暇活動、山、溪流、花、動物などをテーマに2007年の砂防カレンダーの写真を募集しています。

応募資格	制限はありません
サイズ	カラー写真で四切りサイズ(四切りワイドを含む)
締め切り	冬の写真/平成18年3月31日 春の写真/平成18年6月30日
入選及び賞金	優秀賞/季節各1点 計4点 賞金10万円 佳作賞/季節各2点 計8点 賞金5万円

作品募集に関する詳しい問い合わせ先は…

NPO法人砂防広報センター  
TEL (03) 3459-1591  
HPアドレス <http://www.sabopc.or.jp>



平成18年 1-6月

砂防関係の

主な行事

- 支部活動予定 2月2日 静岡県砂防ボランティア協会総会  
5月22日 静岡県支部通常総会(予定)
- 協会本部活動予定 3月16・17日 砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)  
5月17日 平成18年度通常総会(砂防会館)

### 【表紙写真】



高原の朝 <西伊豆スカイライン>  
亀井 正隆さん(沼津市)

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記まで問合せ下さい。

## 編・集・後・記

新年明けましておめでとうございます。

平成17年は大合併により会員数が減少し、砂防事業視察や研修の参加者数も減少傾向にあります。土砂災害防止に対する会員の皆様方や関係各位の意識の向上を図るための広報・啓発活動として本誌が担う責任を改めて認識し、よりよい誌面づくりに努めていきたいと思っております。

年頭に当たり会員の皆様からの御多幸を祈念しますとともに、本年も砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

砂防だよりが砂防室ホームページでも見られるようになりました。砂防室HPアドレス：<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>

砂防だより

第152号 発行日：平成18年1月1日

編集・発行：全国治水砂防協会 静岡県支部

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県土木部河川砂防総室砂防室内  
TEL (054) 221-3042 FAX (054) 221-3564 E-mail: sabo@pref.shizuoka.lg.jp

2100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。